

松戸市議会 豆知識

VOL.12

当コーナーでは、「最近の松戸市政事情」について説明させて頂きます。

行政視察報告

木村みね子は平成25年1月、所属党派(松政クラブ)議員と共に沖縄県宮古島市、那覇市に行政視察(出張調査)に行ってきました。帰松後、木村みね子が市議会議員に提出した報告内容を公開させて頂きます。

出張調査目的

1. 次世代エネルギーパーク構想について
2. 小中一貫教育推進事業について
3. ポケットサイズ防災対応マニュアルについて
4. 校交啓育つた事業について

出張調査概要

※紙面の都合上、上記出張調査目的の1、3及び4、7を割愛させて頂きましたのでご了承下さい。

●次世代エネルギーパーク構想について(沖縄県宮古島市)

1. 概要
宮古島には太陽発電所、風力発電所や、さとうきび製糖時に発生する廃糖蜜を原料とするバイオエタノール生産施設、泡盛蒸留槽を利用したタンガム生産施設等の再生可能エネルギー施設が存在し、また、資源のサイクルによる埋理生成施設、バイオマス実証研究施設などがある。当該設備や施設等が整備された地域拠点が次世代エネルギーパークであり、これらをPRし、訪問者が次世代エネルギーパークを見て、触れることで宮古島のエネルギー産業や環境保全への取組みへの理解を深め、将来のエネルギーのあり方について、理解の増進を図るものとなっている。

※紙面の都合上、上記出張調査目的の1、3及び4、7を割愛させて頂きましたのでご了承下さい。



再生可能エネルギーパーク(宮古島市)

2. 設備・施設の状況等 ※一部を除き、資料による説明に基づく

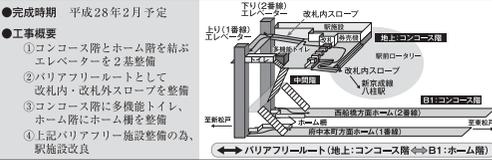
- ①風力発電設備(約100kwを基礎、沖縄電力が600kwを1基運用。年間約690kwを発電。一般家庭の年間電力消費量の約1,900軒分相当。年間約6,527のCO2削減効果がある。
- ②風力・太陽光発電設備(中アム風力発電所・宮古島ソーラー実証研究施設) 4,000kwの太陽光発電と4,000kwのNAS電池で系統規模の小さな離島の独立系統へ太陽光発電設備を大量導入した場合の系統系へ与える影響を把握し、太陽光発電と蓄電池の運用データを解析しながら、系統安定化対策に関する実証研究に取り組んでいる。
- ③バイオエタノール生産施設設備(バイオエタノール生産施設) 宮古島バイオエタノールプロジェクトを基盤として、内閣府・産産省・農水省・環境省など1府5省の連携事業として進められており、バイオエタノール生産技術の確立と実走走行まで一貫して実証を行って我が国初の事例。
- ④混合燃料(バイオエタノール混合ガソリン)製造設備(E3-E10製造設備) 製造されたバイオエタノールを利用した、ガソリンとバイオエタノール混合燃料(E3-E10)を製造する施設。E3-E10燃料実走走行試験車に給油している。
- ⑤バイオ・エコシステム研究施設(宮古島バイオ・エコシステム研究センター) バイオマス・エコシステムによる高機能環境社会の構築、バイオマスの効果的利用の研究などを進めている。
- ⑥埋理生成施設(宮古島資源リサイクルセンター) 平成15年に農水省農村振興総合整備補助事業の一環として事業開始。畜産廃棄物、出汁等、特定廃棄物を堆肥化し農地に還元し、農産物の品質向上、食の安全に資し、地下水の保全、環境改善を図っている。
- ⑦製糖バイオ発電設備(沖之島製糖所、床多良川) 沖之島製糖所宮古工場、宮古製糖工場工場) ※バイオ・サトウキビの糖とサトウキビから粗糖ができるまでの工程で、圧搾工程で発生したバグアスと蔗タージン発電設備のボラーの燃料として使用し発電する。また、粗糖の製造工程において発生する副産物は全て回収され、有機肥料として畑に還元される。
- ⑧メタン発酵設備(菊之島酒造所、床多良川) 泡盛醸造で生じる酒粕を利用してバイオエネルギーとしてガス化し、洗車などの洗浄ガスとして利用。酒粕は有機肥料として農地に還元。
- ⑨設備(エコハウス(都市地帯) 郊外型) ※市南地理を突撃し実現 所在地は平良地区区画整理の敷地。区画整理地内にある公園予定地の一部を利用。着産地である宮古島の気候風土から生まれた伝統的な住まい作りである。エコハウスの基本は、現地の気候風土、敷地条件、住まい方に応じて自然エネルギーが最大活用されること、身近に入手できる地域の材料を使用するなど、環境への負担をかけずに建てられることである。視察したエコハウスは、月毎に異なる風向きを考慮した設計がなされ、床レベルの換気を促すことで湿気を吹き飛ばすか、断風対策や日射遮断の為に自然換気がガスよりも効果のある花ブロック(着丸コクリートブロック)でパワース壁を作るなどの工夫が見られる。

エコハウス(宮古島市)

木村みね子トピックス Part 2

JR新八柱駅バリアフリー化工事に着手 「平成28年2月完成めざす！」

木村みね子が市議初当選(平成18年)以来、一般質問をはじめ、議会内外で積極的に取組んでまいりました「JR新八柱駅バリアフリー化工事」が本年6月に着手、平成28年2月完成を目指します。



- 完成時期 平成28年2月予定
- 工事概要
 - ①コンコース階とホーム階を結ぶエレベーターを2基整備
 - ②バリアフリールートとして改札内・改札外スロープを整備
 - ③コンコース階に多機能トイレ、ホーム階にホームドアを整備
 - ④上記バリアフリー施設整備の為、駅施設改良

●小中一貫教育推進事業について(沖振那覇市) ※パワーポイントによる説明に基づく

1.なぜ小中一貫教育なのか(現状・課題・対策)

- ① 専らに在る過程における現状 ※全国的女子供達の実態として
 - ① 子供達の心身の発達や社会環境の変化
 - ② 不登校や問題行動(いじめ・暴力行動など)の増加、学習意欲の低下、入学時の不安 ※いむゆる中1キヤップ【※那覇市の実態(小6→中1)】
 - ① 不登校生徒出現率:2.1倍、いじめ:1.9.5倍、暴力行為:10.5倍
 - ② 小・中の指導法の違い(学級担任制と教科担任制の違い)
- ② 課題 子供達の発達段階に応じた学習指導・生活指導等が必要
- ③ 対策 小学校と中学校の連携を取り直し、義務教育9年間を継続した「指導内容」「指導方法」の実施の必要性



那覇市役所会議室にて

2.那覇市が目指す小中一貫教育

- 1) 定義 義務教育9年間を連続した期間と捉え、一貫性ある教育課程で学習指導・生活指導を行う教育。
- 2) 目的
 - ① 義務教育9年間を修了するのに相応しい学力育成
 - ② 豊かな人間性や社会性の育成
 - ③ 中学校入学時の不安解消

3.小中一貫教育の取組み内容

- 1) 基本的な取組み
 - ① 小中共通の教育目標設定
 - ② 合同研究テーマ・共通実践項目設定
 - ③ 小中合同授業研究
 - ④ 9年間を見通した教育課程に基づく指導
 - ⑤ 中(4・5・6、中1)に重点を置いた取組み
 - ⑥ 9年間で見通した英語教育
 - ⑦ 小中の交流活動
 - ⑧ 小中一貫教育についての啓発活動
 - ⑨ 幼小連携
- 2) より充実を目指す取組み(基本的取組みをも更に充実させた位置づけとして)
 - ① 小中合同行事・異学年交流活動
 - ② 小中相互支援体制
 - ③ 地域社会との連携

4.モリコロ(那覇市)の概要

- 1) 児童生徒数
 - ① 沖原中学校 生徒数440人、教員数27人、学級数 普通12・特支2
 - ② 沖原小学校 * 446人、 * 24人、 * 普通14・特支2
 - ③ 池原小学校 * 178人、 * 13人、 * 普通6・特支1
- 2) 職員配置
 - ① 管理職 校長 各1人、教頭各1人
 - ② 教諭職 定数配当基準に基づく配置、小中一貫教育コーディネーター1人臨時教諭
 - ③ 養護教諭・購買事務・市事務 中学校及び小学校にそれぞれ1人

所感

●宮古島の次世代エネルギーパーク構想について

地球環境と調和した将来のエネルギーの方向性を突撃し、施設で具体的に示されている。一昨年の東日本大震災後、脱炭素社会が叫ばれ、その後、再生可能エネルギーの議論と共に導入が活発化すると、宮古島のエネルギー取組はまさにその一歩の進捗であると評価して共有ではない。震災以降、政府の促進策により太陽光発電は爆発的に普及した。2012年度は原発5基に匹敵する再生可能エネルギー設備が政府の認定を受けており、その発電設備の内9割以上が太陽光である。新聞報道によれば、その様な爆発的な普及により電力インフラへの影響が出ている、大都市へ送電のための電線の容量不足が懸念されていることである。

本年4月には福島県那覇市の再生可能エネルギーの将来をどう実証点々が新設され、再生可能エネルギーのテスト、実証、安定性、貯蓄、利用技術などについて研究し、方策の確立を目指すようである。また、日経新聞では、今後のエネルギー需給と電力料金の見通しについて調査を行ったところ、エネルギー問題の解決に向けて日本が注力すべきものとして最も多かったのは「太陽光・太陽熱発電」であり、「シェールガスなど新たな化石燃料の開発」、「地熱・地熱発電」、「風力発電」へと続いている。

再生可能エネルギーの拡大への期待の大きさを皆表されたものである。

本市においては、平成22年4月より一般家庭から出される使用済み食用油をBDF(バイオディーゼルの原料)として使用する「食用油回収モデル事業」が実施され、現在、市のごみ収集車1台が100%BDFで走行していることは承認している。宮古島市では、2020年までにガソリン燃料を全量E10化し、また、将来に向けE100への対応を検証するなどの目標が明確化され、他の取り組みと合わせ、環境モデル都市としてエコ対策が一層向上しているが、本市においても同様な取組を進めるにあたっては現在実施している「食用油回収モデル事業」の一層の本格化が必要と考える。その為には宮古島の様々な課題の明確な設定に加え、市民の更なる啓発が必要なものとなる。また、埋理生成システムは宮古島に限らず本市においても対応可能事業と考えられることから早期に検討すべき課題ではなかろうか。

本市においても将来のエネルギー政策ならびに環境保護を一層積極的に議論すべきと考えるものである。

●小中一貫教育推進事業について

特筆すべきものとして、1つは、基本的な取組み事項の中に「那覇市幼児教育振興アクションプログラム」に基づいた幼小の連携の推進が明記されていることである。那覇市内には小学校が37校あり、その全てに市立幼稚園が併設されているが、これ以降、米国の施設等による純粋に幼児中等学校の附属幼稚園として併設される実質的な義務教育として開始されたこの名称である。幼小の連携の推進は小学校教育への円滑な移行を図る為とされているが、幼小一貫教育と言っても過言ではないと思える。

2つめに、小中一貫教育の形態であるが、これは小・中校の施設が一体となった形態、敷地が隣接している形態、小・中校の施設が隣接している分離型の形態であるが、当該モデルの場合は既存の施設を基とした分離型で推進している。3校(中1校・中2校)が分離したままで、果たして目的が達成できるものか若干の懸念を拭くことはできない。

3つめとして、基本的な取組み事項の小中合同授業研究については、小中学校の教職員が互いの専門性に学び、9年間の教育課程や指導方法を理解し、教師自らの指導に活かせることは学ぶ側の進捗にとってもメリットは大きいものと思われる。

那覇市における当該事業の目的、目標、取組内容、実施計画などは今後の検証結果と共に本市独自の小中一貫教育を今後推進するにあたり、参考となるべき点はあるうかと思える。

今後の主なスケジュール

平成25年9月議会・木村みね子登壇予定等

- 本会議(一般質問) 登壇日 一般質問・登壇予定日:9月4日(水)～6日(金)の何れか ※木村みね子は市民の皆様の市政の場にしっかりと反響させるべく、今回も本会議に登壇、一般質問致します。
- 教育環境常任委員会及び 決算審査特別委員会(教育環境分科会) ・教育環境常任委員会予定日:9月17日(水)午前10時～ ・決算審査特別委員会予定日:9月20日(金)午前10時～ ※木村みね子は議長として議事進行を務めます。

★本会議の他、常任委員会も務められます。務め方は後援会事務所までお電話/お問合せ下さい。

第40回松戸まつりにて 「指導者支援活動」を行います

今年も、木村みね子後援会ピンク・スターズと共に指導者支援活動を行います。

- 日時:10月5日(土) 10:00～17:00
- 場所:桜見公園(ロケットター)
- 内容:指導者支援活動の募金活動、チャリティグッズ販売、指導者とのふれあいコーナー開催など

多くの皆様のご参加をお願いします。

思いやりと行動力 木村みね子 市政報告 後援会報

2013年8月号(平成25年・VOL.13)

ご挨拶

厳しい暑が続きますが、皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素は、木村みね子に多大なるご指導、ご支援を賜り誠に有難うございます。 此度の参院選におきまして、とりわけ千葉県選挙区では奥田としろう候補に、全国比例では山東昭子候補に熱くご支持・ご支援を賜り心より御礼申し上げます。 昨年の衆院選に続く自民党の圧勝でねじれ国会が解消し、決められる政治への一歩を踏み出すと共に安倍内閣へのきっかけが掴むことができました。 復興の正念場はこれらであり、実感を伴う経済成長の実現、震災からの復興の加速、消費増税の判断、利益重視のTPP交渉、東アジアの安定と日米同盟強化に向けた集団的自衛権行使、普天間移設等山積した難題解決に大いに期待を寄せるものであります。 さて、私は、民主党政権時に疎かになっておりました教育再生につきましては以前より危惧してはいたものであります。安倍総理は本年2月末に「教育の取組み」と教育再生に積極的な姿勢を示されました。斯様な明るい兆しを受け、私を政策の1つである「日本の誇り」と明らかな希望もてる教育再生の推進につきまして、

6月議会・一般質問で取り上げ、現在クローズアップされている「道徳の教科化」に伴う「道徳教育の考え方」、「学校週6日制」導入に向けた現在の課題と考え方を伺い、将来を担う世代の育成は最優先で進めていくべきであることを強調したところ、道徳教育については重要性を充分に認識しており道徳教育の充実にも努める旨の答弁を得ました。学校週6日制につきましては、子ども達を取巻く環境が大きく変化することなどの課題も多々あることから本市の実態に即した方向性の研究が必要との答弁を得、今後充分な議論・検討がなされていくこととなりました。 また、市内小中学校の耐震改修工事が平成27年度完了に向け、現在順調に進行中ですが、私は教育環境常任委員長として耐震改修工事後の牧野原中学校を視察したところ、構造的にみて生徒の安心・安全を確保できないことが判明、本紙トピックスに記載の通りとなった次第です。 これからも子ども達の安心・安全はもとより、なにより松戸を守り、活力のある松戸を取り戻すために山積した課題に積極的に取組んで参ります。 今後私も、木村みね子の議会活動・政治活動にご理解とご支援を賜ります様何卒宜しくお願い申し上げます。

松戸市議会議員 木村みね子

TOPICS TOPICS 木村みね子トピックス TOPICS TOPICS

木村みね子後援会「春の日帰りバスツアー」 東日本盲導犬協会見学と 日光東照宮参拝・特別祈禱に80名が参加!

木村みね子後援会は5月19日(日)、春の日帰りバスツアーを催行しました。恒例となった「春の集い」に代わり、後援会員の皆様の声を反映し実施した初のツアーである、木村みね子の地元常盤平をはじめ千駄堀、徳台、松飛台、五香などの他市内各所より、最高齢94歳の女性(常盤平西葦町在住・Kさん)をはじめ総勢80名の皆様に参加されました。

東日本盲導犬協会 ホール

盲導犬の体験 歩行レシ

折衝殿(重要文化財)祈禱

直会(なほらい)会場

最初の目的地は、木村みね子が日頃より全面的に支援している(公財)東日本盲導犬協会(栃木県宇都宮市)。約30分の講習・盲導犬のデモンストレーションの後、盲導犬との体験歩行、大きな施設見学を行いました。見学後に「盲導犬を取巻く環境、状況などが食言判った」と理解を示す声や「盲導犬の健気な姿勢に感動した」との感想を聞きました。



本日のスターは盲導犬 1号車の皆様 2号車の皆様

二番目の目的地、平成の大修理が行なわれている最中の日光東照宮では2グループに別れ、それぞれが巫女さんによる境内案内・説明で陽明門、麴淵、唐門、三猿の彫刻、殿内などお馴染みの国宝、重要文化財を見学。祈禱殿(重文)では東照宮神職による特別祈禱、「家内安全・身体健全」を

参加者全員で祈願の後には、普段は立入ることができない東照宮でも最も重要といわれる御本社・拝殿にて参拝、最後は客殿にて「直会(なほらい)」が執り行われ、神札・御神酒・記念品が授与されました。参加者の中には「東照宮には行ったこととはあるが、個人で体験できなかったことができて良かった!」と事前で祈禱ができ、身も心も潤った」と話す方もおりました。



※直会(なほらい):神事の終了後に俗性に戻る為の儀式



議会の答弁におきまして執行部が予算や財源に言及することは極めて異例のことです。木村みね子が当該事例の重大さと対策の必要性を適確に指摘したことに加え、何よりも子ども達の安全・安心を最優先で願う真摯な姿勢が、執行部の理解へと繋がり斯様な答弁に至ったものと思えます。



耐震改修工事後の牧野原中学校。フェンスなどがなく危険です

「牧野原中学校」耐震工事後の構造的不備を指摘! 早急な対策の必要性を訴え、 予算化も含め安全対策実施へ!!

※関連2・3面(平成25年6月定例会本会議「木村みね子」の一般質問)

木村みね子は平成25年6月定例会・本会議における一般質問の中で、「小中学校の耐震化について」松戸市立牧野原中学校の耐震改修工事後の構造的な安全対策の不備を指摘。子ども達が耐震壁の外側から落下する可能性がある、フェンスの取り付けなど至急対策を講じる必要があることを訴え、更には対策の時期について踏み込んで再質問した結果、「対策を早急に決定し、施設管理経費の中で対応が困難な場合は、補正予算などで予算化まで含め対策を実施する」(本市執行部)との答弁を得ました。

